

学習資料 現在の北方領土の産業、暮らしについて

■現在の北方四島の産業

北方四島では、漁業、水産加工業が島の主要な産業として重要な位置を占めています。島内には規模の大きい水産加工場や孵化場も存在し、加工された缶詰等は島外にも出荷されています。

一方、自然環境や気象条件が厳しいため、栽培される野菜の種類は少なく、生産の中心はジャガイモです。島内には農業企業は存在せず、生産の大部分は、「ダーチャ」と呼ばれる家庭菜園からの収穫です。

水産加工場（択捉島）



写真提供) 独立行政法人北方領土問題対策協会

■現在の北方四島における暮らし

<交通・物流>

- ・ 北方四島には、アスファルト舗装で整備されている道路もありますが、砂利で固めた簡易舗装の道路もあり、強い雨の後などは通行に支障が生じる状況です。また、路面の劣化が原因と思われる陥没箇所がいくつか見られ、安全性が十分とは言えません。
- ・ 民間の航空機が利用する空港は、国後島と択捉島に各1か所あり、サハリンからの定期便（週5便）が就航しています。国後島の空港は気象条件に影響されますが、夜間の飛行機の受け入れが可能となりました。

<住宅>

- ・ 北方四島の住宅の多くは木造建築です。ほとんどの住宅が平屋か2階建てですが、戸数12～40戸の集合住宅も見られます。

<医療・衛生>

- ・ 北方四島の医療事情は良好とは言い難く、択捉島と国後島には病院があるものの、それ以外には小さな診療所などが存在するだけなので、重症患者はサハリンに送られます。
- ・ 近年、日本政府は、四島内での診療が難しい患者の受け入れなどの事業を実施しています。

<教育>

- ・ 約17,000人のロシア人が暮らす北方四島には、色丹島に2校、国後島に3校、択捉島に4校の計9校の初等・中等普通教育学校があり、約1,300人の生徒（2015年現在）が学んでいます。学校の年度は、9月1日から翌年の8月31日までです。四島には大学がないため、大陸等にわたって就学します。

^{ふるかまっが}
古釜布の町並み（国後島）



学校（色丹島）



写真提供) 独立行政法人北方領土問題対策協会